

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290100225		
法人名	医療法人社団水澄み会		
事業所名	グループホームアゼリア まめな		
所在地	松江市黒田町475-7		
自己評価作成日	令和4年1月5日	評価結果市町村受理日	令和4年5月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 コスモブレイン		
所在地	島根県松江市上乃木7丁目9番16号		
訪問調査日	令和4年3月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>お客様のADLに合わせて本人できることはやって頂くように支援している。毎月季節にあった行事を計画し、お客様に季節を感じて頂くように行事を実施している。普段から気づきを多く持つようにし、ヒヤリハットに繋げ、事故ゼロを目指している。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>市のほぼ中心部の住宅地の中に位置し、有料老人ホーム、認知症のデイを含んだデイを2か所、訪問介護、居宅と複数のサービスを併設している。デイサービスと出入りを共有していることもあり、コロナ禍になってからはグループホーム単独での動きが難しく、面会や外出の制限が続いている。長年、運営推進会議の場で、毎回、介護保険関連の学習会を続けてきており、文書開催となった今年度も、関係者からは多くの意見が聞かれており、地域との結びつきの強さを感じる。開所から年数は経過しているが、特老に移った方は少なく、今まで多くの看取りを行ってきている。現在も入居者の平均介護度は3に近く重度化しており、看取りを希望する方も多くある。今後に於いても幅広い研修を重ね、これまでの経験を生かして取り組んでいただきたい。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	研修や日々の介護を通して理念を再認識し実践に繋がるように心掛けている	グループ全体の理念に沿ってグループホーム独自のものへと繋げている。今までは毎年個人目標を掲げて取り組んでいたが今年度は行っていない。職員は経験年数が豊富で新規職員もいない為、ミーティングや会議の場で考え方を伝えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの為、地域との繋がりは控えている	コロナ禍以前は公民館行事に参加したり、文化祭に作品を出したり交流があったが途絶えている。地区の防災訓練にも職員が参加協力していたがこちらも中断。運営推進会議参加者には便りを送付。発信を継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域との交流は出来ていないが学習した内容をお便りにてお伝えしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実態、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスの為、運営推進会議を開催出来ていないが、文書開催している	コロナ禍で集合しての会議は行っていないが、以前から会議の際には、勉強会を開催しており、正副の自治会長、民生委員、地域支援員など多くの参加者があり、書面でも活発な意見が多く返信されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所便りを置かせてもらっている。運営推進会議実施出来ていない為、お便りにて意見をいただいている	運営推進会議は書面開催にしているが、毎回結果を送付し意見を得るようにしている。介護保険担当課には報告や問い合わせを行ったり、認定調査でも関わりがある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年学習会を行い、身体拘束をしないケアを行っている。外に出られた際は声掛けをし一緒に歩くようにしている	定期に委員会を行い、研修も計画的に開催している。マニュアルを確認したり、主にスピーチロック、アンダーマネジメントについては繰り返し取り上げたり、センサーマットや人感センサーについても検討を重ねている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年学習会を行い、虐待についての理解を深め、職員間での声掛けも気を付けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の内部学習会等、機会があれば参加を積極的に行っている。過去に成年後見制度を利用しておられた方があり、理解をしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に丁寧に説明を行い、理解を得ている。また改定時その都度不安な点や疑問点を尋ね説明を行い理解を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	感染症予防の為、運営推進会議を又書開催し、担当者会議等で意見を聞いている。また、毎年アンケートを行い運営に反映するようにして	年1回の家族会はコロナ禍になってからは中止しているが、家族アンケートは行っており結果を公表し業務改善に繋げている。家族関係者には、担当が2か月に1回大きめの写真と日頃の様子を伝える文章を添え送付し意見を得る機会としている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に面談を開き、意見や悩みを聞いている。また希望者には時間を設け話をしている	6ヶ月に1回、年2回の面談の機会がある。職員は個々に年1回自己評価を行い上司評価に繋がっている。面談では人間関係の悩み等が多く聞かれるが、管理者は働きやすい環境になるよう業務改善に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務改善が必要な際は職員で話し合い、お客様の安全を第一に考えながら行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実態と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数等、個々の職員に合わせて感染予防に努めながら法人内研修に参加している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	感染予防の為、リモート等活用しながら研修や会議に参加し、サービス向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族から本人の情報をお聞きし、要望を把握し、安心して過ごしてもらうように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思い、不安な事を聞き、関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族からの相談時には要望や思いを聞き、対応を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に本を見たり、歌をうたったりして関係を築くようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に手紙を送り、様子を伝えている。その他にも何かあれば電話で連絡させて頂き、家族と共に本人を支えていく関係を築くようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスで面会出来ない為、支援が出来ない状態にある	デイサービスを併設しており、玄関を共有する形となるため、コロナ感染症の感染リスクが高く、面会制限を継続。リモート面会は行っておらず、内科以外の受診のある方の場合には家族対応とし、家族と関わる限られた時間となっている。	いろいろな方法で今までの関係継続に努めていただきたい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員がお客様同士の間に入り支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所に移られた際は情報提供を行い、必要に応じて経過のフォローし、生活の継続性が損なわれないように努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の声掛けや会話の中で言動や表情を汲み取り、希望、意向の把握に努めている。意思疎通困難な方は家族からも情報を得て、関わるようにしている	重度化や認知症が進んだ方が多く思いが伝わりにくいため、思いに沿った計画になっているか職員間で話し合っている。行事の際には普段見られない表情をされることもあり、楽しい時間が継続するようプランに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から生活歴や馴染みの暮らし方について情報取得、アセスメントシートで活用等をしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の生活リズムを理解し、職員同士での情報共有を行い、サービスに反映し、出来ることはしていただくようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族から思いを聞き、介護計画書に反映している。些細な状態変化等必要時家族に伝えている	コロナ禍で家族関係者参加での担当者会議はできない為、事前に電話等で思いを聞き計画を作成している。入所時にはアセスメントシートを家族の協力を得て作成。定期のモニタリングを基に現状に沿った計画になるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルに生活状況、食事や排泄、健康状態等本人の言動、サービス内容等記録している。職員間の情報共有しプランの見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて、病院受診や送迎等柔軟な対応を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスの為、実施していないが地域のボランティアの方に来て頂き、公民館喫茶等外出している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医になっている。2週間に1回往診に来ていただいている	家族対応で今までのかかりつけ医を継続することも、往診可能な施設の協力医に変更することもできるようになっている。休日、夜間等も指示が得られるようになっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の些細な事に気づき、状態変化等、看護職員と連携し、お客様に応じた支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院へ情報提供を行い、治療の状況等把握し、退院前カンファレンスを実施し、安心して退院できるようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早期に急変時の確認を行い、重度化した場合や終末期には再度カンファレンスを行い、意思確認をして、看取りも実施している	今年度も2人の看取りを行っている。以前から積極的に関わっていたため、特老に移動した方も極端に少なく、現入居者も看取りを希望する方が多い。グループ内異動で看護師体制が不十分になったが、重度の方もあり、方法を講じて前向きに検討することとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部学習会や研修により共有し合い、急変があった際は再度対応の振り返りを行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の協力を得て、避難訓練を行い、振り返りをしている。又、水害の訓練も行っている	施設自体地盤が低く、多量の雨が降ると浸水することが多い。今年度も床上まではいかなかったが水士囊で対応していた。いろいろな場面を想定して訓練を行ったり、防災委員会でも検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お客様の言動を尊重し、排泄介助や入浴介助の際もプライバシー保護をこころがけている	毎年年度初めには接遇研修を行っている。コロナ禍で外部の目は限られており、わかっても馴れ合いになる場合もあるので、定期的な確認の必要性を感じながら、学習会に繋げている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お客様が思いを表出できるよう環境作りや日々のコミュニケーションを取っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お客様ペースやレベルに合わせた支援を行うようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お客様の意志を尊重し、身だしなみやおしゃれの支援をしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	お客様の好みを取り入れている。また、感染予防の観点で、出来ることは限られる中、手伝い等できることをして頂けるように努めている	以前は入居者と一緒に買い物に行っていたが利用者の重度化とコロナ禍で行っていない。栄養士の資格を持った職員が献立をたて、配達を利用。できる作業は限られるが職員と一緒にいき、調理の音や匂いからの刺激を大切に考えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の必要エネルギーを出来るだけ摂取していただけるよう1人1人のレベルに合わせた形態で食事・水分を提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、本人の自立を妨げないよう、口腔ケアをさせていただいている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを職員間で話し合い誘導している。なるべくトイレに座って頂くように援助している	布パンツで自立の方が数名。重度でおむつ使用の方は定期的な交換で対応。紙パンツにパットの方が多いが個々に合わせた介助で、パットもあて方や大きさ、尿量によって使い分けるなど配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に牛乳の提供。排泄時に腹部マッサージ・体操や歩行練習をして頂き、促すようにしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時は会話をしながらリラックスして楽しく入浴できるように努めている	浴室は広めだが一般の家庭浴槽の為重度で中に入れない方もあり、移動は2人介助でシャワー浴対応としている。男性職員の介助を好まない方は女性介助とし、3日に1回のペースで入浴できるように調節している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に合わせて臥床して頂き、又、居室でおちつかれない際はホールですごしていただいている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事情報は個別ファイルに綴じて、職員がいつでもみれるようにしている。又、服薬時は確実にのまれたことを確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントの中から個々の出来ることを見つけて一緒にしている。玄関先までの散歩やレクリエーションで気分転換を図っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスを受け、外出は中止しているため実地できていない	デイサービスを併設しているため、出入りでの接触や同じ車の使用等を避ける必要性から外出の機会は持たず、駐車場の散歩程度しかできていない。家族との内科以外の受診に限られた外出の機会になっている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額所持しておられ、自動販売機まで買いに行かれ、支払いされることもある		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいと言われた際は電話をかけて会話されている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは季節を感じていただける飾りをしている。廊下には日々の行事の写真を掲示している	住宅地の中の施設で外の景色から季節を感じにくい中庭で花を栽培しており、各ユニットから見る事ができる。デイルームには畳の部分があり以前は炬燵を置いていたが、重度化して使っていない。廊下も広く移動しやすくなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お客様同士が会話出来るように席の配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談し、居室の環境整備をしている。出来るだけ、住み慣れた環境にしている	各部屋にクローゼットはあるが、タンスや洋服掛けなどが置かれている。お位牌や家族写真、アルバムなど思い入れのある物も持ち込まれている。ソファの背もたれを持って歩けるように動線に配慮した部屋作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人が出来ることは声掛け、見守りをしながら一緒に行動するようにしている。転倒防止の為に個々に合わせている。		